

製品名: PARP-3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15767**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	PARP3 PARP3; ADPRT3; ADPRTL3; Poly [ADP-ribose] polymerase 3; PARP-3; hPARP-3; ADP-ribosyltransferase diphtheria toxin-like 3; ARTD3; IRT1; NAD(+) ADP-ribosyltransferase 3; ADPRT-3; Poly[ADP-ribose] synthase 3; pADPRT-3
別名	
遺伝子 ID	10039.0
SwissProt ID	Q9Y6F1
免疫原	抗血清はヒト PARP3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 10-59

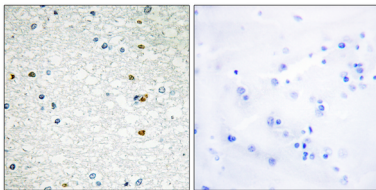
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は PARP ファミリーに属する。これらの酵素は、DNA 修復、アポトーシスの制御、そしてゲノム安定性の維持に必要なポリ ADP リボシル化によって核タンパク質を修飾する。この遺伝子はポリ (ADP-リボシル)トランスフェラーゼ 3 をコードし、これは細胞周期を通して娘中心小体に優先的に局在する。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが同定されている。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: NAD(+) + (ADP-D-リボシル)(n)-受容体 = ニコチンアミド + (ADP-D-リボシル)(n+1)-受容体。、ドメイン: PubMed:10329013 によると、アイソフォーム 2 の N 末端ドメイン (54 アミノ酸) が中心体への局在を担っている。C 末端領域には触媒ドメインが含まれます。、機能: 塩基除去修復 (BER) 経路に関与し、クロマチン構造および DNA 代謝に関与する限られた数の受容体タンパク質のポリ (ADP-リボシル) 化を触媒します。この修飾は DNA 損傷後に起こり、DNA 鎖切断の修復につながる検出/シグナル伝達経路の必須ステップとして機能します。DNA 損傷監視ネットワークを有糸分裂忠実度チェックポイントにリンクする可能性があります。中心体の複製を妨げることなく、G1/S 細胞周期の進行に悪影響を及ぼします。DNA に結合します。PRC2 および PRC3 複合体依存性遺伝子サイレンシングの調節に関与している可能性があります。、PTM: 自己ポリ (ADP)-リボシル化。、類似性: 1 つの PARP α ヘリカルドメインが含まれます。、類似性: 1 つの PARP 触媒ドメインが含まれます。、細胞内位置: 中心体のコア構成要素。細胞周期を通じて娘中心小体に優先的に局在する。PubMed:16924674 によると、ほぼ核内に局在し、多数の小さな焦点と少数の大きな焦点に出現するが、中心体への局在は検出されていない。、サブユニット: PRKDC および PARP1 と相互作用する。XRCC5 と相互作用する。相互作用は核酸に依存する。XRCC6 と相互作用する。相互作用は核酸に依存する。EZH2、HDAC1、HDAC2、SUZ12、YY1、LIG3、LIG4 と相互作用する。、組織特異性: 広く発現しており、腎臓、骨格筋、肝臓、心臓、脾臓に最も多く発現する。また、膵臓、肺、胎盤、脳、白血球、結腸、小腸、卵巣、精巣、前立腺、胸腺にも検出される。、

研究分野

塩基除去修復;

画像データ



PARP3 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。